

世界中のすべての人々が傷つけ合うことなくみんな幸せに、子どもと自然がのびのびと

子どもと自然 学会通信

2012年4月24日発行 45 (vol.10 no.1)

Society of the Child and Nature

発行:子どもと自然学会=日本学術会議協力学術研究団体

- 目次 ともに “うつくしまふくしま”をとりもどすための第一歩 第二歩を(2)
子どもと自然学会第17回研究大会福島大会のご案内(3)
福島のでこそ学ぼうー全国の学生の皆さんに訴えますー(6)
2012.6.2-3.福島大会関係施設配置案内図(8)
第17回全国研究大会福島大会参加申込書(9)

第17回研究大会「フクシマ大会」

大会テーマ:「原発・放射能汚染と子ども・地域」

開催期日 2012年 6月 2日(土)
3日(日)

開催会場:福島大学

:あづま運動公園球場第3会議室

1日目:フィールドワーク/シンポジウム1

/第8回全国学生交流集会/懇親会

2日目:シンポジウム2/総合討論/総会

ともに “うつくしまふくしま” をとりもどすための第一歩、第二歩を
福島大会実行委員長・三石初雄

■ 3.11 から 1 年以上経過したいま、原発再稼働の議論が足早に進められています。「安全神話」への問い直しを、自分自身でそして自分の周りから行うことの難しさも出てきているようにも見えます。しかし、原発事故が直に襲った福島の地では、当初、原発事故への意思表示が不明確ではあったのが、2012 年度になった今、県知事や複数の市長も原発推進への疑問符を上げ始めてもいます（『世界』2012. 4月号）。それは、“原点”であり、“それ以前にもどさない”という地域の人々・市民の想いの反映でもあるといえないでしょうか。

■ さて、福島大会では、3つの企画が待っています。1つは、花見名所の“花見山”を庭とする“自然の中でこそ保育”をモットーとしてきた“さくら保育園”を訪問し、開園以来はじめての定員割れに直面しながらの保育・教育活動で、“自然と子ども”について何こそが問われたのかを考えます（6月2日午前）。

2つには、東日本大震災で根源から問われた“原発”問題を、子ども・青年の生活と環境との関係で考えるシンポジウムの企画Ⅰ（テーマ「放射能汚染と子どもたち」6月2日午後）です。シンポジストは、さくら保育園長、福島での“生活・地域と教育”を根源から考えてきた小・中学校の2教師、ボランティアを通して学び・地域・教育を問うている福島大学生と大学教師です。毎土曜のボランティアを通して、学生は何を考え、大学教師はとらえ直したのか。是非聞いてみたいと思います。

3つには、より広く、食や農、除染活動と市民生活、ともに地球に生きるものという観点から、各シンポジストによる問題提起によるシンポ企画Ⅱです（テーマ「放射能汚染と市民生活」、6月3日午前中）。保育園での食と健康問題を、保護者と悩みながら模索、有機農法の経験から食の安全と健康をどう守れるかを問うてきます。そして、ユネスコ等の国際的な支援団体は福島をどのように見ている、福島の子ども・青年・学生・教師はどう、今後を見すえていくのか等の取り組みの紹介を聞きながら、あるべき地球サイズでの支援の在り方を考えます。

■ 会場は色々です。福島盆地にある“花見山”ハイキングコース（入り口）にあるさくら保育園での自然散策も兼ねられます。そしてその1日目午後には福島大学に移動します。その晩には、ユースゲストハウスというちょっとしゃれたペンション的宿舎での懇親会と学生交流集会、そして宿泊（30名定員）。若い人は、「また来たい」というのではないのでしょうか。このペンションでは、夜は、45センチ反射望遠鏡で、街中では見ることができない星空、星達との遭遇があります。翌日には、プロ野球も来るというあづま総合運動場内の球場会議室でのシンポジウムⅡです。ここは、田んぼと川、そして木々、林に囲まれた自然豊かなロケーションです。ここもゆったりできるところです。

■ 自然豊かな地にありながら、自然豊かな生活と教育環境を生かすことが許されない状況の中での福島・東日本地域の苦悶、切実な想いと教育的営み・生活について、福島の自然とで生活し教育活動を展開している方々からの問題提起をもとに、“自然と子ども”の在り方を問い、今後の第一歩、第二歩を確かめる機会にしたいと思います。東京駅から1時間半で福島です。みなさん！福島の地でお会いしましょう。

福島大会のご案内

大会テーマ 原発・放射能汚染と子ども・地域

○大会の概要 前回(44号に掲載)との大きな変更点

1. フィールドワークをさくら保育園訪問だけにしぼりました。
2. 総会を第2日目の最後に移動しました。

1. 開催期日 **2012年6月2日(土)・3日(日)**

2. 開催会場 第1日目 福島大学(M3教室)／ユースゲストハウス ATOMA(アトマ)
第2日目 あづま総合運動公園・球場第3会議室

3. 日程

6月2日(土)

9:00	9:30	11:30	12:30	13:30	16:30	18:15	20:00頃	21:00
移動	フィールドワーク さくら保育園	移動	昼食	シンポジウムⅠ 福島大学M3教室	移動	懇親会 ATOMA	学生交流集会 ATOMA	

6月3日(日)

9:15	12:15	13:15	14:45	15:00	16:00
シンポジウムⅡ 球場第3会議室	昼食	総合討論 球場第3会議室	総会		

* 理事会 6月1日(金)18:00～20:00 会場 ATOMA

4. 参加費

資料代を含む参加費 一般・会員1000円、学生500円、高校生以下無料(一日のみ参加も同額)ただし、懇親会参加費、移動交通費は含まない。

5. 主催 子どもと自然学会(日本学術会議協力学術研究団体)

後援 福島大学(申請中)

○大会の内容(日程順)

1. フィールドワーク

保育園訪問・園児の活動見学・保育士さんから聞く・園児の遊び場を歩く

さくら保育園 福島県福島市渡利字大豆塚7 TEL024-521-4777

・集合場所・時刻 JR福島駅東口午前9時古関裕而記念像周辺

タクシー乗り合いで移動(15分1500円/台くらい)

緊急連絡先 菅原090-4929-9950 三石080-5034-6063

・フィールドワーク終了後福島大学へ移動

バス花見山入口11:43乗車→福島駅東口(18分・230円)

福島駅2番線12:24郡山行き乗車→金谷川駅下車(9分・190円)→福島大学(徒歩5分)

2. 昼食 各自用意(JR福島駅で購入可) 福島大学生協も利用可能

3. シンポジウム I (180分)

・会場 福島大学M3教室

・テーマ 放射能汚染と子どもたち

・幼児=齊藤美智子さん(さくら保育園園長)

・小学生=古関勝則さん(公立小学校教員)

・中学生=遠藤慎一さん(公立中学校教員)

・福島大学の学生の取り組み=佐藤由季さん、御代田桜子さん(学生ボランティア)

三浦浩喜さん(福島大学教員)

※フィールドワーク抜きで福島大学へ直行される場合

①福島駅12:24郡山行き乗車→金谷川駅下車(9分・190円)→福島大学(徒歩5分)

②郡山駅12:43福島行き乗車→金谷川駅下車(35分・650円)→福島大学(徒歩5分)

4. 大学からATOMAへの移動

大学(徒歩5分)→金谷川駅16:49乗車→福島駅下車(10分・190円)→駅西口に出る

西口バス乗り場でATOMA送迎バス(17:05発予定)乗車→ATOMA(約20分・無料)

※バス定員25名につき一度に乗車できない場合は、17:45分発を増発

5. 懇親会

・会場 ATOMAの食堂&ロビー

飲み物は持ち込み完全OK。一般の皆さんからの差し入れ大歓迎

6. 学生交流集会

内容 原発被災地の子どもたち相手に毎週土曜日にボランティア活動をしている福島大学の皆さんとの交流。シンポIの続編です。

○番外編

ATOMAにはすばらしい天体望遠鏡が備えつけられています。福島の「きれいな」星空をみませんか。

7. シンポジウム II

・会場 あづま総合運動公園 あづま球場第3会議室

・テーマ 放射能汚染と市民生活

- ・食の分野から＝大波昌子さん(さくら南保育園栄養士)
- ・農の分野から＝菅野正寿(せいじゅ)さん(福島県有機農業ネットワーク代表)
- ・原発放射能被害と福島の教育課題＝佐原成典さん(二本松市元公立小学校)
- ・グローバルな視点から福島の教育を考える＝三浦浩喜さん(福島大学)

※交通 ①ATOMA宿泊者:送迎バスにて移動(無料・6分)

②市内宿泊者:福島駅東口7番バス乗場8:15四季の里行き乗車
→あづま総合体育館下車(29分・610円)徒歩3分

8. 昼食

総合運動場のレストランで

9. 総合討論

参加者全員で原発・放射能汚染・子どもと自然について「思い」を語り合います。

10. 総会 2012年度の学会の活動計画、予算等を決定します。

※福島駅への交通(あづま総合体育館→福島駅東口)

12:01, 13:36, 15:11, * 16:36, 17:15(29分・610円)

○宿泊 ユースゲストハウスATOMA (定員35人 学生優先)

宿泊(1泊2食)・懇親会 一般9,000円 学生6,500円

ATOMAでの夕食・懇親会のみ 一般4,000円 学生2,000円

懇親会場もATOMAに設定しましたので、一般の方もATOMAに宿泊して下さい。

一杯になってしまった場合は申し訳ありませんが、福島駅周辺のビジネスホテルや温泉旅館を予約していただきます。

●ATOMA連絡先:〒960-2151福島市桜本字舟石15-2 TEL/FAX024-591-2523

○申し込みについて 別紙申込み書にて

○大会問合せ先

実行委員長 三石初雄 携帯:080-5034-6063

eメール: hatsuo@u-gakugei.ac.jp

実行委員 吉岡秀樹 携帯:080-5513-7413

eメール: hyoshi141@hb.tp1.jp

ユースゲストハウスATOMA 紹介

開設当初から星仲間の、車椅子ユーザーの意見を取り入れ、バリアフリー設計で、その後も、車寄せに大屋根を設置して車から濡れずに館内に入れるようにしたり、浴室の改修等を行ってきた。2002年には全旅連「人に優しい地域の宿づくり賞」優秀賞(全国トップ10)も受賞。

立地に恵まれ、リビングルームからは福島盆地が一望できる。夜景や日の出が居ながらにして楽しめる。

周辺は果樹農園地帯で、苺(1月から6月)、さくらんぼ(6月から7月)、ブルーベリー(6月から8月)、桃(7月から9月)、梨(8月から10月)、ブドウ(9月から10月)、リンゴ(8月から11月)が楽しめる。

当館には東北第3位の口径51cm超大型望遠鏡があり、天体観測が楽しめる。
(ATOMAのHPから)

福島でこそ学ぼう

— 全国の学生の皆さんに訴えます —

福島大会実行委員（成田市）吉岡秀樹

私は今年に入ってから、大会準備のために2度、福島の地を訪れました。1回目は1月29日でした。雪のたくさん残っている福島大学の構内で色あせた鈴なりの柿の実を見つけました。人にも鳥にも食べられずに赤黒く熟れ残っている姿は異様でした。人が取らないのは放射能汚染が理由でしょうが、鳥が食べないのはなぜでしょうか。おそらく同様の柿が無数に放置されているからに違いありません。これまで毎冬3000個の干し柿を作っていた現地実行委員の菅原宏一さんも柿の線量が高くてこの冬は干し柿作りを断念したといますから。

2回目は4月14日、15日に訪れました。実行委員会が15日の午後だったので半日、雪の回廊で名高い、磐梯吾妻スカイラインを菅原さんとドライブしました。福島も平地ではようやく早咲きの桜が咲き出そうとしましたが、標高1707mの吾妻小富士はまだ真っ白の雪で覆われていました。道路こそ除雪されていましたが、他はやはり深い雪で、道路沿いにわずかに土が見えるだけでした。しかし、雪解けのその黒々とした土には萌黄色のフキノトウが点々と確認できました。「この季節は例年だったら交通の妨げになるほど山菜目当ての車が押しかける」と菅原さん。しかし、フキノトウを摘む人の姿はほとんど見かけませんでした。

また、この日はフィールドワークで訪れ

る「さくら保育園」を下見することもできました。桜など色とりどりの花木が5haもの山全体に植えられているという花見山。今年は例年よりも桜の開花が遅れているということでしたが、それでも山は薄くピンクに染まっていました。その花見山の目と鼻の先に保育園がありました。「自然の中でこそ保育」というさくら保育園の理念を支えるすばらしい環境でした。その日は日曜日だったのですが運よく園長の齋藤先生にお会いし、話を聞くこともできました。

「ハイハイしかできないゼロ歳児が隣の神社の階段を這って登ります。さくら保育園の卒園児は、小学校に入るとみんなリレーの選手になるといわれているんです。それがあの日以来、花見山どころか園庭でさえ遊ぶことができなくなってしまいました」。齋藤先生の口調は静かで時々、笑顔さえ見せてご苦労されたことを話してくれました。保護者総出の除染のこと、どんな工夫をして放射線量を下げたかということ、運動不足になってしまった子どもたちの健康のことなど。短い時間でしたが、いくらかでも話は出てくるのでした。

ふと目を園庭に向けるとそこには線量計が設置されていました。そういえばJR福島駅前にも線量計は設置されていました。福島の人たちはみんなで放射線を監視していることを感じました。

学生のみなさん、今回の大会では二つの

シンポジウムを用意していますが、シンポジストはいずれも福島の方々です。原発被災の福島の地で、懸命にがんばっている皆さんです。現地でしか学べないことがたくさんある、と私は強く思います。

私たちは名古屋大会、神戸大会で原発や放射能と子ども、教育について考え合ってきましたがこれまでの学びを福島の地でさらに深め合いませんか。

特に、第1日目のシンポジウムでは福島大生の報告があります。毎週土曜日に仮設住宅を訪れ、中学生に勉強を教え、生活上の相談に乗るといったボランティア活動を行っている大学生の報告です。どんなことを思い、どのように中学生とかかわっているのか、また、原発やエネルギーの問題をどのように考えているのかぜひとも聞いてみたいのです。

福島大学の皆さんは学生交流集会にも参加してくれます。そこでも忌憚のない交流と学び会いができるはずですよ。

関西からも北海道からも福島までは遠いです。お金もかかります。しかし、数日前、関西のK女子大のI先生から何人か参加予定の学生がいるということでした。また、同じ関西のKT大のS先生もゼミの学生が代表派遣を考えているところだといいます。私はうれしくなりました。こうした動きがどんどん広がるなら、大変な中でシンポジストを引き受けてくれた現地の方々をきくと元気づけることができる、そう思います。

みなさん、6月2日、3日は福島でお会いしましょう。たくさん、たくさん学び合いましょう。

自分の目で見ない限り、原発事故の本質はわからない

福島大会実行委員（つくば市）玉生志郎

福島を自分の目でしっかりと見ない限り、原発事故の本質はわからないと思います。

現地の人達の生の声を聞いて、みんなで議論しましょう。

4月16日に福島へ打ち合わせに行ったときの私の気持ちを俳句にしました。

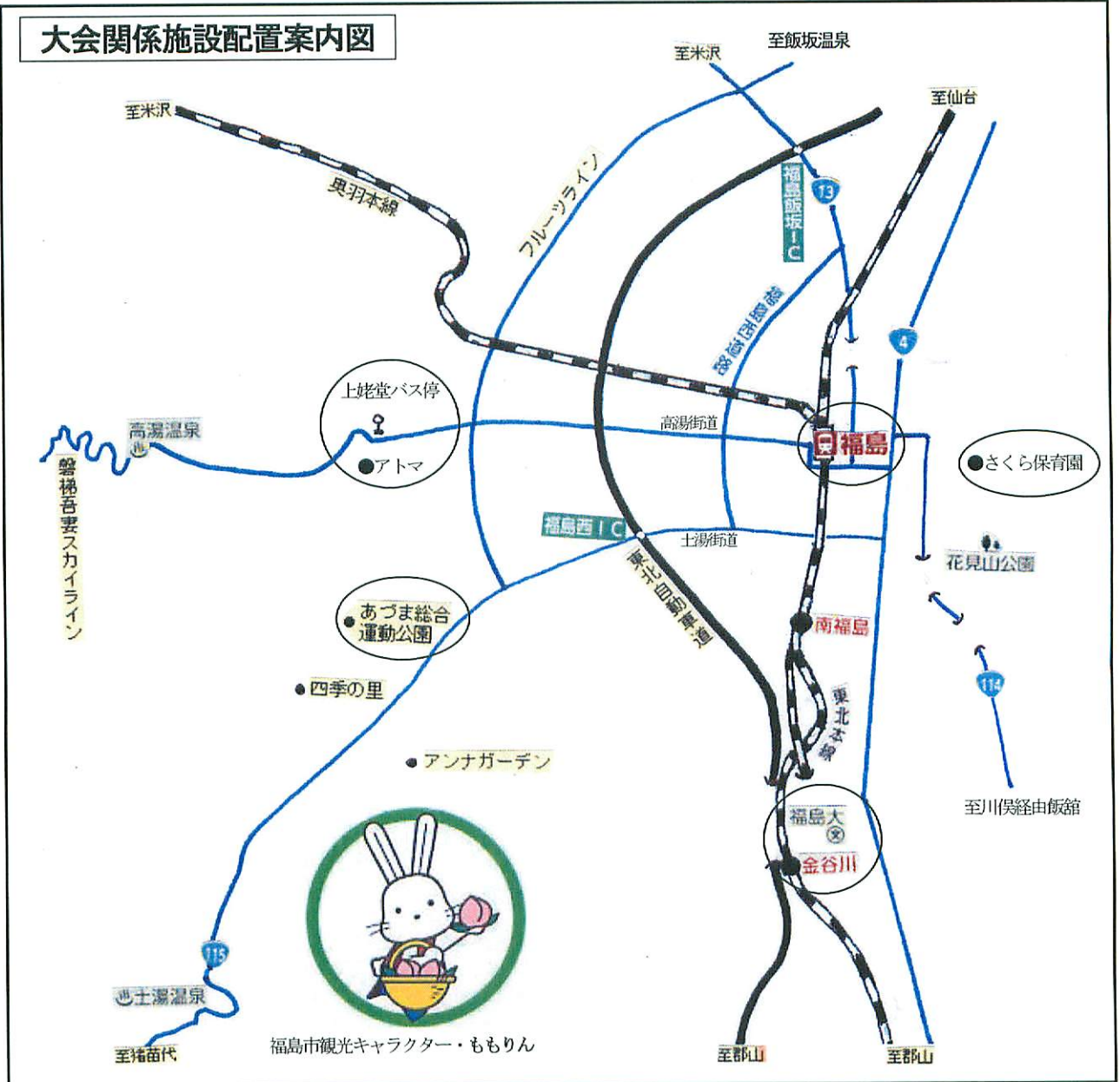
「フクシマの春田やゼオライトの袋」

福島では田んぼの準備が始まっていました。田んぼの畦にはたくさん袋が並んでいました。菅原さんに伺ったところ、放射性セシウムの米への移行を抑えるために、田んぼに撒くゼオライトだそうです。

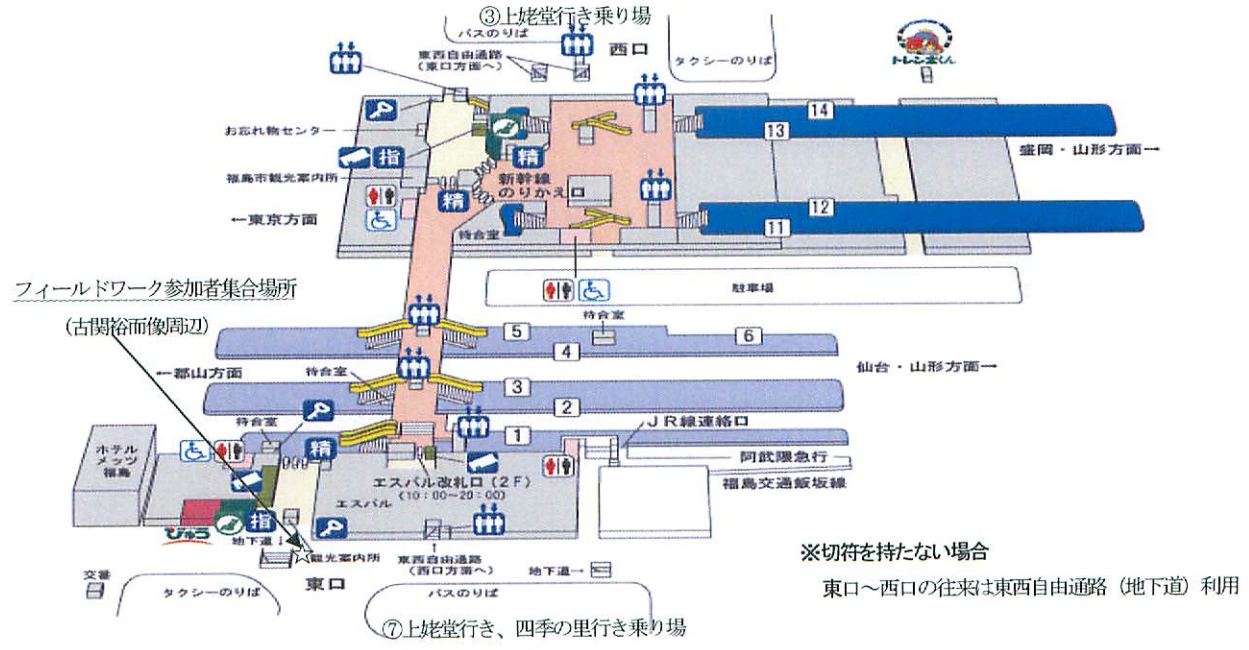
「囀りも花となりたる花見山」

フィールドワークで訪れるさくら保育園は花見山の入り口にあります。花見山の素晴らしさを詠んでみました。

大会関係施設配置案内図



福島駅構内案内図



第17回全国研究大会 福島大会 参加申込書 5月15日締めきり

氏名					
住所		〒			
電話番号					
E-mailアドレス					
参 加 内 容	6月 2日 (土)	フィールドワーク	参加	不参加	未定
		シンポジウム	参加	不参加	未定
		懇親会(会場ATOMA)	参加	不参加	
		学生交流集会	参加	不参加	未定
	6月 3日 (日)	シンポジウムII	参加	不参加	未定
		総会	参加	不参加	未定
	ユースゲストハウス ATOMAへの宿泊 (定員35人)		6/1(金)大会前日	予約する	しない
6/2(土)大会第1日目			予約する	しない	

ATOMAを貸し切りにしていただきました。懇親会もATOMAが会場です。県外からの参加者はできるだけ、ATOMAへの宿泊をお願いします。ただし、定員をオーバーした場合は学生優先とします。また、懇親会と宿泊以外は事前申し込みがなくても参加できます。

参加申し込み先

吉岡秀樹 〒286-0834 千葉県成田市和田141

FAX・TEL 0476-22-4190 携帯 080-5513-7413

Eメール hyoshi141@hb.tp1.jp